



34 サルのきも (タイの昔ばなし)

昔ある大きな川にワニの夫婦が住んでいました。

ワニの奥さんは、具合が悪くなりました。夫が心配して欲しいものを訪ねると、「ひとつだけ、食べたいものがあります。それは、サルのきもです。それを食べるときっと良くなります。」と言ったので、夫はサルを捕まえに行きました。

ワニはサルに「向こう岸においしい果物があるよ、川を渡してあげよ。」と誘いかけました。サルを背に乗せ川の真ん中まで来ると、ワニはお前のきもが必要なんだとサルにうち明けました。

行き場を失い、万事休すのサルは、きもを忘れたから陸に戻って欲しいと言います。ワニが陸に戻してやるとサルは一計を案じ、いちじくの実をとってきて「これがきもです」といって差し出しました。「なるほど、これがサルのきもか。」ワニは素直にそれを持ち帰り、奥さんに食べさせました。すると、病気はケロリとなおってしまいました。

奇跡の無花果に、救われました。

ローム君の新・博物日記 第34話

世界昔ばなしを科学する

このシリーズは、半導体技術で世界に貢献するロームがお届けしています。おなじみの世界の昔ばなしの中から毎回テーマを一つとりあげ、そこに隠れているいろいろな不思議を科学の視点で見つめます。さて、今回のおはなしは…

おしらせ

バックナンバーは、ロームの文化支援のサイトでご覧いただけます。
www.rohm.co.jpへアクセス

●不思議な果実、東西の違いは？

この昔ばなしは、その原型が古代インドの説話集から来ていることから、仏教の影響を受けていると考えられています。分布は広く、東南アジアの諸地域や東ヨーロッパ、アフリカや南アメリカにも類話があります。日本にも類話がありますが、中でも「サルとワニ」が「サルとクラゲ」になっている類話が有名です。ところで、このように昔ばなしで薬効が表現される果実は、他にどのようなものがあるのでしょうか。まず日本で有名なものは『ならなしとり』に登場する梨で、病を治すとされています。また、『桃太郎』でおなじみの桃も、日本の昔ばなしでは、若返りや不老長寿の力がある果実としてしばしば表現されます。一方、これが欧米になると、実際にも薬効が信じられているリンゴが多くなるようです。世界の果実が手に入る現代と違って、やはり身近な果実には違いが現れるようですね。

●効能いろいろ、いちじくの不思議。

昔ばなしでワニの病気が治ったように、いちじくには、体に良い作用があるのでしょうか。いちじくは、中国や東南アジア、インドなどでは薬用植物としてよく知られているそうです。蛋白分解酵素を多く含み、消化促進剤や下剤として効果が認められています。また、女性の悩みのひとつである便秘に効果があるとされ、他にニキビ(白い樹液を利用)、冷感性(薬を入浴剤として使用)の効果が認められている

ので女性には特に有用な植物と言われます。近年では、抗癌作用が確認されていて研究が進められています。昔ばなしで、病気になったのは奥さんワニなので女性。この昔ばなしは科学的にも根拠がある話なのかも知れませんね。

●なぜ“無花果”と書くの？

いちじくは最も歴史の古い果実のひとつで、西暦紀元のかなり前から栽培されていた記録が残っているほどです。クワ科のいちじく属に属し、あらゆる植物の中でも最大のグループのひとつで、なんと700種類以上もあるといわれています。仏教で釈迦が悟りを開いたとされるインドボダイジュも、いちじくの仲間です。ところで、いちじくを漢字で書くとき無花果と書くことをご存じですか。この当て字は、花が咲かずに実をつけるように見えることから来ているようです。しかし、本当に花が咲かないのでしょうか。いちじくをタテに割ると、棒状のものが中心に向かって生えていて、その先端に小さな粒が無数にあります。じつは、これら一つ一つが花なのです。これらの花の集まりは特別に「花のう」と呼ばれています。厳密には、いちじくは果実ではなく、花が変形したものと考えられています。果実と思っている大部分は、花だったわけですね。昔ばなし同様、いちじくは、なかなか不思議な実のようです。

昔ばなし監修/昔ばなし研究所所長 小澤俊夫
取材協力/(財)日本モンキーセンター 動物園園長 加藤 章